

R7年度

(別紙3)

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	海と太陽の子城南スクール		
○保護者評価実施期間	R8年3月9日		~ R8年3月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 13
○従業員評価実施期間	R8年3月9日		~ R8年3月21日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	R8年3月23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にしている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	コミーというAI機能を活用して個別支援計画書を作成していること	AI機能で客観的にお子さんを分析し、AI機能がお子さんの特性に合った支援を提示してくれるので、根拠のある支援が提供できる	AI機能は、お子様の情緒面を分析するのが難しいので、この機能に頼りすぎるのではなく、お子さんと保護者の信条に寄り添う支援を心掛ける
2	現場の保育士、児童指導員、すべての職員が5年以上の実務経験があり、経験豊富なスタッフが揃っていること	利用児童をそれぞれのスタッフに担当制として割り振り、担当スタッフがAI機能を活用して専門的支援計画書を作成している	専門的支援を積極的に取り入れ始めて3か月とまだ日が浅いので担当職員だけで気負うのではなく、スタッフ全員で取り組みながら熟練度を上げていく
3	馬や動物と関わる機会が多い	事業所に馬がいるので週1、2回程度アニマルセラピーを行い、馬とのふれあいや乗馬活動を当として優しい心を育みながら体幹も鍛えている	アニマルセラピー以外の被もその日の担当児童が餌の準備やポロ(ウンチ)の掃除を行い、生き物と向き合う上での楽しさや大変さを学んでいる

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	中学生以上の児童の支援提供が難しい	事業所を契約している児童の9割以上が小学生なので環境や活動設定を考えると中学生の児童に合った支援を提供するのが難しい	中学生が増えることを想定して就労を意識した活動やプログラミング支援等を準備しておく
2	言語聴覚士、理学療法士がいない	2年ほど前から言語訓練等、専門的な支援を必要とする児童が増えてきている	地域の研修や会議等でPT/STの方に合う機会があるので、情報収集し、事業所で提供できる支援内容であれば検討していく
3	地域とのつながりが薄い	城南町で開かれる地域のイベント等が年に数回程度なので地域とのつながりが薄い	町の清掃作業がある時等、参加ができるときは参加し、地域とのつながりを増やしていく